

定期報告

2011年5月21日

天候:曇り 温度:室外16℃ 室内24℃ 湿度:40℃ 風:微風

放射線量:0.10 μ Sv/h:持参線量計 PalmRAD Dosimeter Model 1621M(BNC)

食事 朝:カレー、ウインナー、スープ、サラダ、グレープフルーツ

昼:たらこスパゲッティ、惣菜パン、玉子スープ

夜:ご飯、中華スープ、肉野菜炒め、マーボ豆腐

氏名:中嶋 優太(薬剤師)

体調:良好

行動日誌

5:30 起床

6:30 朝食

7:00 中嶋隊ミーティング

8:40 診察室にて診療前ミーティング

9:00 診療開始

本内薬剤師は調剤、中嶋は藤川医師チームの曾我看護師、八木橋総務とともに、大槌町内医療機関の情報収集、前日の釜石カンファレンスの情報提供のため外出
前任の西村隊が作成した医療機関マップを配布

11:30 中嶋 大槌高校避難所に帰着

午前の診察終了

到着していた角田医師チーム(むつ市)に挨拶

角田医師、角田看護師、三國看護師、田中事務担当

藤川医師チームとともに業務内容引き継ぎに参加

藤川医師チームとお別れ

12:00 昼食

13:00 午後の診察開始

医薬品在庫リストの見直し

14:00 つくし薬局来局

前日依頼していた救護所外処方分の医薬品、注文医薬品が届く

16:00 午後の診療終了

シープラザ釜石での対策会議へ出発

角田医師、中嶋が参加

八木橋総務と三國看護師、田中事務担当が買い出し

17:50 シーガリアマリンで入浴

19:00 大槌高校帰着

角田医師、中嶋でインフルエンザ隔離室へ

避難所の三浦代表と対策を提案

夕食、歓談

22:00 消灯就寝

大槌高校避難所ミーティング

三浦代表から、前日までは、生活している体育館の管理者として自治会長をおいていたが、一人だと業務がなかなか円滑に回らない。負担と責任が重すぎるとのことで、今まで分けられた班(8班)ごとに班長を決め、その8名による合議制に変更した。

インフルエンザ対応

午前の診療開始後すぐに釜石の開業医より電話があり、大槌高校避難所で生活している医療事務員がインフルエンザ陽性であることが判明した。その家族も大槌高校避難所で生活しているため、薬剤の予防的服用、隔離を含めた対応の依頼があった。

その後、当医療チーム、三浦代表、保健師で隔離環境を設営した。隔離施設は現在保健室として使用している部屋を使用。インフルエンザ発症者の家族も含め3名が隔離されることとなった。トイレ使用以外は常時隔離として対応。

避難所班長さんから、隔離室への食事の配膳について相談があった。昼に配膳を担当した保健師は通いであるため、夕食と朝食の配膳担当者を確保できないという。

角田医師に、昼夜常駐する我々医療チームスタッフで配膳してはどうかと提案し了承いただく。配膳時に、インフルエンザ患者の容態も確認することにした。

角田看護師、三浦代表とで配膳方法を確認した。

夕方、避難所内の食事の配給が一段落してから、角田看護師が食事を受取り患者に届けた。その際、日用品調達の要望があった。

角田医師と隔離室に出向き、日用品調達のための外出は避けるようお願いし、歯ブラシ、歯磨き粉、整髪料を三浦代表に依頼した。

この時、三浦代表が避難所体育館と隔離室を何度か行き来をしていることが判明。

隔離室への用事は、原則、食事の配膳を含め医療チームスタッフが対応することを説明。

必要時は、マスク着用、手洗いうがい、手指消毒薬の使用励行をお願いした。

患者病状

医療事務女性 20代 釜石市内診療所勤務

前日市販の風邪薬を服用したが症状改善せず、当日出勤しインフルエンザ陽性であることが判明。すぐにイナビル吸入薬を処方してもらい使用。

18:00 体温 38.5°C 見るからにぐったり、軽く咳

その母 63歳

インフルエンザ検査は陰性ながら、濃厚接触者ということで藤川医師により予防のためタミフルが処方された。本内薬剤師が投薬説明。

9:30 発熱、その他随伴症状なし

18:00 36.5°C 気になる症状なし

息子 8歳

母親同様、インフルエンザ検査は陰性。藤川医師により予防のためリレンザが処方。本内薬剤師より吸入説明。

9:30 発熱、その他随伴症状なし

18:00 37.1°C 気になる症状なし

課題

避難所内に感染が拡がらないよう隔離室での生活を何日か強いることになるが、仕事を休むこと、子供が退屈することの不安を訴えていたがご協力していただく他はない。多くの避難者と接触する保健師チームが、隔離室対応をする場合は、限定した方をお願いすることにした。

また、風邪様症状が疑われる場合は、早期に診察を受けること、マスクの着用、うがい手洗い、手指消毒の励行を提案した。

明日からも医師、看護師、保健師、三浦代表とともに感染拡大防止と終息に尽力したい。

大槌町診療施設での情報交換

藤川医師チームの曾我看護師に引き継ぐことの挨拶と、西村隊作成の医療機関マップを各医療機関に配布。前日の釜石カンファレンスでの情報を提供。

その際、道又医院でインフルエンザ陽性患者5名に対応した。釜石商業工業高校でインフルエンザ患者が多く出ていることを確認した。感染症報告は求められていないようだった。

課題

17時に釜石市で開催される災害対策会議は、再開した診療所医師にとって診療時間の兼ね合いから参加すること自体が難しい。青森県チームで災害対策会議内容の情報提供を始めたばかりだが、今後も継続していく必要がある。

診療多忙につき情報提供方法の説明が出来ていない、メール連絡先が未確認という診療所がある。月曜日に案内することとする。

明日の釜石カンファレンスで、大槌病院仮設診療所の開設予定が6月1日で変わらないか確認し、医療機関マップにその情報を入れて改正する。

釜石災害対策会議

災害対策本部代表の寺田尚弘医師に今回の大槌高校内でのインフルエンザ発症の状況とその対応を報告。

道又医院のインフルエンザ状況を伝達。情報提供に労いの言葉をいただいた。

また、大槌高校避難所で更に隔離室を作るとしてもあと1室が限界であることも説明し、今後発症例が増えた場合の対応を相談した。中部病院からICT(感染対策チーム)を派遣するので、

すぐに連絡するよう指示があった。

岩手県薬剤師会常務理事の中田義仁薬剤師に抗インフルエンザ薬の手配状況などを確認したところ、問題なく手配できること確認した。

気温の上昇によりカ、ハエ、アブが増えているようで、今後の避難所周辺の環境を危惧した医師から報告があり、保健所に対応をお願いすると返答があった。

岩手県作業療法士会が釜石、大槌を回っているが、必要があれば保健師や代表に相談するようにとのこと。

明日の予定

本内薬剤師

- 調剤投薬業務、
- 救急箱リスト作成
- 医療機関マップの改正(必要時)
- 釜石カンファレンス同行

中嶋

- 調剤投薬業務、
- 避難所ミーティングで今後のインフルエンザ患者への対応を三浦代表、保健師チームに提案
- 救急箱設置に向けた相談
- 角田医師チームの隔離室患者の往診に同行
- 本日相談し忘れた、破傷風に対する注射薬の確認

氏名:本内 孝典(薬剤師)

体調:良好

行動日誌

5:30 起床

6:00 朝食準備開始。

藤川医師チームの看護師が前夜に残った食材と野菜を使って見事なサラダを作ってくれた。中嶋チームも協力して豪華朝食に。フルーツもあり栄養バランスもよさそう。

7:00 弱い雨が降っていたため室内でミーティング。それぞれ本日の行動予定を確認。

8:40 診察室で藤川医師チームと診療前ミーティング

9:00 診療開始。

中嶋薬剤師、八木橋総務、曾我看護師は大槌町内の医療機関の情報収集に外出。前任の西村チーム作成の医療機関マップも配布する予定。本内は救護所に残り調剤。

10:00 つくし薬局が救護所外処方せんの回収に来た。

調剤のかたわら、室内レイアウトを変更。高校から机を借りてきて、つくし薬局依頼用医薬品置き場とファイル置き場を新たにまとめた。

11:00 避難所でインフルエンザ疑い患者が発生。

避難所で暮らしながら、他医療機関に勤めている患者がインフルエンザ陽性で発熱。当該患者は勤務先医療機関で検査を受けて陽性確定のため治療を受けた。その報告を受けた大槌高校救護室は、当該患者の母親(63)と子供(8)を診察。二人は陰性だったが、感染拡大を防ぐため家族を保健室に隔離。母親にはタミフル、子供にはリレンザが予防のため処方され、隔離室に届けて服薬説明。子供にリレンザは少々難しいので、念入りに説明。感染拡大を防ぐため残さず必要量を吸入するよう説明した。

11:30 午前の診察終了。中嶋薬剤師たちが帰着。

藤川医師チームとお別れ。全員で記念撮影をした。

診療は角田医師チーム(むつ市)に交代。

12:00 角田医師チームとお昼を食べながらお話。

13:00 午後の診察開始。

角田医師より「リスト中、残数の少ない医薬品をわかりやすくしてほしい」との依頼をうけ、医薬品リストの該当医薬品に灰色をつけて渡した。

14:00 つくし薬局から前日依頼していた救護所外処方分の医薬品が届いた。

しかし、冷所保存の医薬品を持ってくるのを忘れて、薬袋の中がからっぽだったりしたものがあつた。つくし薬局のスタッフにも疲労の色が見えた。

14:30 前日、在庫がまったくないと思っていたバルトレックスを調剤棚で発見。

探しきれなかった注意不足が原因。後悔。

16:00 午後の診療が終了。

シープラザ釜石の対策会議に角田医師、中嶋薬剤師が参加。八木橋総務と角田医師チームスタッフは買い物に。

本内は残って夕食準備と救急箱医薬品の用法リストを作成

カンファレンスに参加した中嶋薬剤師からの依頼で、新たなインフルエンザ患者が発生した場合、さらに隔離室を確保できるかどうか保健師と大槌高校教員に相談。

現在、医薬品倉庫として利用している部屋を提供との結論に至った。

19:00 角田医師チームと夕食。

角田医師が iPad で弊社ホームページと facebook を興味深そうにみていた。

22:00 消灯就寝

藤川医師チームは一週間の滞在を終えて帰られた。いままでの町田チーム全員にとっても良い印象をもっておられたようだ。私たちは1日のみのお付き合いだったがとても親切に接していただき、さまざまなお話も聞くことができた。

藤川医師も JMAT 参加にあたっていろいろな思いがあったようだ。

「実は被災した方に対して診察を行うと、変な話、被災者からはねたまれるんじゃないかと少し心配していたんだ。彼らは本当に何もかも失ったのに、我々はほとんど被害もなかったから別世界だからね。でも取り越し苦労だった。みんなやさしいんだよ」と言っていた。やっぱり岩手にはいい人が多いんだと思う。

明日は避難所内インフルエンザの動向にも注意が必要だ。

氏名:八木橋 郁夫 (総務担当)

体調:良好

行動日誌

05:30 起床

06:00 朝食準備

06:30 朝食

07:00 町田チーム朝のミーティング

08:45 診療所ミーティング

09:00 中嶋薬剤師・葛西主任・八木橋・曾我看護師と各診療所へ

09:15 藤井小児科へ挨拶

09:25 大槌病院診療所へ挨拶

09:45 城山公園体育館の沖縄チームへ挨拶

09:55 道又内科小児科医院へ挨拶

10:15 大槌病院仮設診療所(建設中)視察

10:40 大槌高校到着後、昼食準備

12:00 昼食

13:00 調理場・就寝場所の掃除 ゴミ出し 食材在庫整理

16:20 釜石へ出発 総務は食材の調達

19:00 大槌高校帰着

19:00 夕食

22:00 就寝

午前に城山公園体育館で沖縄チームに挨拶をした。途中、被災者の方々に挨拶をしたが返事がまったくなかった。心なしか避難所の空気も重く感じられ、我々が滞在させてもらっている大槌高校とは雰囲気は全く違っていた。

大槌高校の生徒さんは毎日元気に笑顔で挨拶をしてくれる。そして被災者の方々も誰もが挨拶を返してくれる。高校生の元気な挨拶が避難所の雰囲気を変えてくれるのだと思う。このことに感動し、私も見習って実行していきたいと思った。

氏名:葛西豊誠(総務)

体調:良好

行動日誌

5:30 起床

6:30 朝食

7:00 雨天につき校内でミーティング

8:45 診療所カンファレンス

9:00 葛西、八木橋、中嶋薬剤師、曾我看護師と病院マップを各診療所へ届けた

10:30 大槌高校へ戻った

11:00 迎いの阿保部長が到着、皆さんに挨拶し帰路についた

16:00 帰社

大槌高校を出発し、奇跡的に被災を免れたという神社を経由して釜石へ向かった。
大槌町から離れ、間もなく涙が出てきて止まらなかった。

「一人の力は微力ではあるが無力ではない」

大槌高校調理所にあった張り紙だ。

今回支援隊へ参加して、何ができるだろうと自分に問いかけてきた。

被災地の皆さんの為にできることを今後も考えて行きたいと思った。

はちのへ99クリニックの藤川医師、曾我看護師、見年代看護師、柏崎看護師の皆さんには
大変お世話になりました。

最後に、体重が5キロ落ちていた。